

戦後初、本格的な政権交代となった衆院選から3年がたった。「国民との約束」だった民主党のマニフェスト(政権公約)は次々と破綻。参院選大敗で生じたねじれは、国会の審議をしばしば停滞させ、ついには政権3人目の首相の問責が決議された。衆院解散・総選挙が迫る中、民主政権の3年をどう評価するのか。兵庫関係の与野党のキーマン4人に話してもらった。(山崎史記子)

# 政権交代から3年 民主党政権の功罪は

## 県関係4議員に聞く

### 民主党・松本剛明氏

政権交代そのものの意義は大きかったと思う。「政権の選択肢がある」という民主主義では当たり前前のことが、できるようになった。その点は理解していただけるのではないが。

新しい党だから、思い切った政策転換もできた。診療報酬改定などで「医療崩壊」という言葉は以前より聞かれなくなつたと思う。予算の執行状況を外部有識者とともに各府省が検証する「行政事業レビュー」の導入で、行政機構には、たゆまず改革を続ける認識を持ってもらったはずだ。

ただ、政権を担う民主党自体は、かなりの部分で国民の大きな期待に応えきれなかった。3年前の選挙の際、より多くの有権者、国民と理念

策立案に携わることができ、即戦力が不足した面もあつた。

を共有する努力をすべきだった。象徴的に「子ども手当2万6千円」と伝えるのではなく、教育施策の重要性そのものを訴えなければならなかった。政治主導を掲げたことも、「官僚との対決」ところをえられてしまった。議員の半数を新人が占めたことで、党運営や政

お金をだけではできないことをどう解決するか。それが本来民主党がすべき政策だ。批判は謙虚に受け止めたい。一方で、われわれが取り組んできた政策の一つ一つを客観的に見て、評価していただきたい。政権交代前に戻すことだけはしてはならないと感じている。

## 大胆な政策転換に意義



まつもと・たけあき 民主党国対委員長代理。衆院兵庫11区。前外相。当選4回。53歳。

### 民主党・石井一氏

この3年間、民主党が期待されたほどの成果を上げられなかったことは、率直に認めなければいけない。経験不足、未熟だった点は、次の総選挙で審判が下るだろう。前回の衆院選では、ばら色の公約を並べすぎた感がある。無駄を廃して16兆〜17兆円を引っ張り出し、福祉や国民生活に回すとしたが、現実には3兆円程度しか出てこなかった。

そのため、民主のマニフェストが次々破綻したと言われるが、年金制度改革や子育て支援などの一部は達成できた。3年や5年で公約すべてを実現できるかと考えられるのにも無理がある。眼前にある政策課題は、どの党が政権をとっても必ず取り組まなければならない

## 経験不足で成果上がらず



いしい・はじめ 民主党副代表。参院比例代表選出。当選12回(衆院11回、参院1回)。78歳。

ものばかりだ。すべてが右肩上がりの高度成長時代、政治は経済の勢いに付いていけばよかった。低成長時代の今、政治がどう主導するか。国民の要請も大きくなる中、だれもが満足できる結果を得ることは難しい。何でも決めて進める、目の覚めるようなリーダーが、どこから現

日本が民主主義を取り入れてまだ70年弱。国民も政党も、期待や失望、批判といった「高い授業料」を払うことによって健全な民主主義が育っていくのだと信じている。

### 新党日本・田中康夫氏

国民は政権交代に、終戦で平和が訪れるような大きな変化を期待したのだと思う。だが、平和で成熟した今の日本で、そうした変化を実感してもうるのは難しい。

当初、民主党と統一会派を組んだ私は、無駄の削減だけでなく、小さくとも目に見える「果実」を国民が得られるような予算の組み替えを提言した。例えば、介護スタッフ給与を時給30円アップし、人手不足を解消する。老朽化した橋やトンネルを2カ月で緊急総点検し、前倒して補修すれば地域経済も活性化する。

だが、「政権交代」自体が目的となつてしまい、実体験からわき出るような施策が乏しかった。官邸前で毎金曜夕方に行っている(原発)再稼働反対の抗議は、イデオロギーや党派を超えた国民の怒り。なのに「無党派」の受け皿だった民主党政権が今、一番、それを分かっている。

### 自民党・西村康稔氏

失われた3年だった。「罪」が9割、「功」が1割だ。罪はまず経済政策。円高が90円台から70円台まで進み、相当劣化した。TPP(環太平洋連携協定)はじめ、諸外国との経済連携も進んでいない。ほかに、原発をめぐる対応でエネルギー政策が混乱した。領土問題を含む外交の失敗もある。自民政権時代の反省も込め、外交・経済の立て直しを図らねばならない。功を挙げるとすれば、

の政治主導をつくり直さなければいけない。もう一つは、社会保障と税の一体改革に共に取り組んだこと。残された経済成長政策と社会保障の改革を、やり遂げなければならぬ。

これを、世論受けを狙った政策に走るポピュリズムとの闘いだ。流されず、日本の将来を見据えた骨太の政策を打ち出さなければならぬ。自民も大衆迎合的になりつつあり、危惧を覚える。もう一度信頼を得るため、大胆な世代交代も必要。できなければ、第三極に取って代わられる。

## 役人との協力築けず



たなか・やすお 新党日本代表。衆院兵庫8区。元長野県知事。当選2回(参院1回、衆院1回)。56歳。

役人との協力築けず。しかし、民主党は〇×式「事業仕分け」などのパフォーマンスで、やる

## 経済、外交 相次ぐ失敗



にしむら・やすとし 自民党「影の内閣」財務相。衆院兵庫9区。当選3回。49歳。

めちやくちやだつたが、政治主導を取り入れたこと。自民は「官」依存の体質があつた。自分たちを顧み、官と断絶した民主党の失敗も教訓に、真